

磐田市長賞

ウランが教えてくれたもの

磐田市立豊浜小学校

六年 鈴木 美波

私には大切にしている宝物があります。それはウランという犬の写真です。ウランは去年の十月、十七年という長い時間を生きぬいて天国に行っていました。犬の十七年は人間の八十四才にあたるそうです。本当に長生きをしてくれました。

ウランがなくなってからもうすぐ一年がたとうとしています。

去年の今ごろ、散歩の途中で急に「パタン」とたおれたのが具合が悪くなった始まりです。その時、お母さんは、

「ウランはもう長くないかも」

と言いました。私は悲しさのあまりになみだが止まりませんでした。私が生まれた時にはもう私の横にいてくれたウラン、うれしいとげんかんからくつを持ってくるウラン、ベビーカーにのせてよく散歩に行ったな。ウランは十三才位のころから耳がきこえなくなり私がウランの耳代わりをしてきたな。いろいろな思い出や出来事が私の頭の中にかびました。けどウランはまだ死んでない、最後までずっとウランのそばにしようと思は心にちかいました。

それから一カ月後、ウランは天国に旅立ちました。私の心の

中にポッカーいながあきました。

学校から帰ってくると、あたり前のようにいたウランがいなくなった。私の一日の始まりだった日課が、明日からはなくなっていました。私はさみしくて悲しくて、ウランがいけない生活です。すぐすことがこんなにつらいものだと、ウランが生きている時は感じませんでした。

あれから一年、私の心の中にあいてしまったあなは、だんだん小さくなってきました。ウランよりも年下のねこや犬の世話、学校の友達や勉強、みんなが私の心のあなを小さくしてくれました。だから今ウランに伝えたいです。

「私は元気だよ。ウーちゃんも天国で元気になっていますか。」
お水がもっといっぱい飲みたいんだ、今日は具合が悪いんだ、もっと遊びたいんだ、私はウランの気持ちをちゃんとわかってあげれてたかな、とふり返る時があります。

動物は私たちを笑顔にしてくれます。そして私たちと同じように命があります。私たちより生がいが短い犬の命、やはり大事にしなくてははいけません。犬だけではなく、命のあるもの全てを大事にしなくてははいけません。私はウランから教えてもらった気がします。